

▼カリブ海に位置するプエルトリコはアメリカの準州だが、米国籍以外のビジターは空港で入島審査があった。通貨は米国ドルであり、その点は不便だが、言葉はスペイン語が通常使われ、英語は通じ難い。

1978年から5年間、音響製品の担当者として、NJからこの島へ幾度となく仕事で飛んだ。嵩張るスピーカーボックスの輸送コスト節減の為にここで生産をしていた。当時の島には日本語放送はないので、NJの自宅で週一回の日本語番組を録画したビデオを定期的に日本人駐在員へ送付した。

1983年以降はこの島でページャーの生産もされた。貿易摩擦に絡んだ自動車電話と同様にダンピング対策だ。この関係でも何回かシカゴからこの地を訪問した。

▼この島にはタノイ族と云われる原住民が数万人の規模で住んでいたが、大航海時代の15世紀末にスペイン人が入って、植民化

された。オランダやイギリスの雇ったカリブの海賊の攻撃に対して要塞モロ城を造る事で18世紀末までスペイン領としてそれなりに平穏な時代だった。

しかし、1898年の米西戦争で、勝った米国へ島は割譲され、米連邦政府の統治が始まった。その後、プエルトリコ独立を目指す勢力が島内だけにとどまらず、米本土に於いても活発化した。トルーマン大統領の暗殺未遂、米連邦議会への襲撃など反乱の動きは激化し、事態を重く見た連邦政府は1952年にアメリカのコモンウェルスとして内政自治権を付与した。米本土から企業誘致も図られたが、満足な雇用が確保できなかった。そのため、多くの農村人口がニューヨークなどの大都市へ移住した。ウエストサイド物語がその象徴的なドラマだ。その後、1998年には州昇格を目指す動きもあったが、住民投票で否決された。

▼仕事から離れてクリスマス休暇を利用して家族で訪ねた事もあった。真冬のNJ州から空路3時間半で首都サンファンに到着す

る。機内にはクリスマスで本土から帰省する多くのプエルトリカンで満席だ。サンファン空港に飛行機が無事に着陸した時には一斉に大歓声と拍手が機内に沸き上がって喜びを表していた。

▼我々は海沿いのホリデイインに宿泊してレンタカーで島内の観光を楽しんだ。その中でもカリブ海の波の打ち寄せるモロ城は観光の目玉だ。サンファンの旧市街を散策して城に入れば、カリブの海風に吹かれ、かつてのスペイン時代の堅牢な海に突き出る要塞とその見張り台などを観ながら往時に想いを馳せた。

▼プエルトリコ名産のラム酒 Don Q は強烈だ。この黒ラベルは151度と記されている。口に含んでも喉の手前で蒸発してしまう。レス



プエルトリコのモロ要塞にて

トランのテラスでこのラム酒をベースにしたカクテルを楽しみながら食事をすれば、この島固有の小さな蛙が透き通る声で「コキ・コキ・コキ」と鳴いている。実に風情がある。その蛙の名称も「コキ」と云う。島の湿度は高く、NJではカサカサだった肌がこの滞在で大いに潤った。

冬ぬくし要塞突き出るカリブ海

「コキ・コキ」と鳴くは聖夜の夕蛙

▼カンクンはメキシコ湾とカリブ海の間突き出したユカタン半島の先端に位置している。1970年代にはこの地を米国からの観光客を目当てにメキシコ政府が大規模な開発を進めていた。

苦戦中のステレオ販売プログラムで成績優秀だった販売店をこの地に招待した。参加した店主達は夫婦同伴参加のプログラムだったので、私も子供達を知人宅に預けて、招待者として夫婦で参加した。

カンクンの海岸に面したホテルで感謝の

イベントもあったが、翌日は日帰り観光でマヤの遺跡、チチェン・イツツアを訪ねるプログラムを組んでいた。招待された誰もが「この企画はとても印象深く、良かった」と云ってくれた。ホテルよりバスで半島の奥地へ入り、かつてのマヤ文明の栄光を俯瞰し、それを肌で感ずる事が出来た。

▼チチェン・イツツアとはマヤ語で「聖なる泉、その畔の水の魔法使い」を意味する。ここはマヤの最高神ククルカンを祀るピラミッドを中心に、神殿、生贄を捧げる聖殿などの建物を配して、8世紀から13世紀頃まで栄えた遺跡だ。当時の球技場や聖なる泉「セノーテ」もある。巨大な競技場の壁には球技後に生贄となった敗者の髑髏がいっくつも彫られていた。中央ピラミッドの階段は、4面の91段を合計すると364段で、最上段の神殿の1段を足すと、ちょうど365段である。また1面の階層9段は階段で分断されているので合計18段となり、これらはマヤ暦の1年（18か月5日）を表す。このことから「暦のピラミッド」とも呼ばれる。北面の階段の最下段にククルカン（蛇

が身をくねらせた姿）の頭部の彫刻があり、春分の日・秋分の日には太陽が沈む時、ピラミッドは真西

から照らされ階段の西側にククルカンの胴体が光り現れる。これをククルカンの降臨と呼ばれる。その春分の日と秋分の日には多くの観光客で賑わうと云う。

カンクンからチチェン・イツツア遺跡までの森を抜ける村道では、現地人メステイロの生活も垣間見えた。かつての日本の開け放たれた田舎の風景にも似ている。

神殿は永久の暦や夏至近し

石壁に並ぶ首級へ西日の矢



チチェン・イツツアのピラミッド

続く